

「研究のあゆみ」に寄せて

幼児期は、運動機能が著しく発達する時期だと言われています。この時期は、日常生活に必要な動作ばかりでなく、人生のさまざまな場面で必要な運動のもとになるさまざまな基礎的な動きを獲得する大切な時期です。また、力の加減を調節したり、タイミングよく動いたりするなど、自分の身体感覚を高め、身体の動きを上手にコントロールする能力の基礎を身につける大切な時期でもあります。

基礎的な動きの獲得は、大きく分けると「動きの多様化」と「動きの洗練化」という二つの方向性があると言われています。「動きの多様化」とは、日常のさまざまな生活動作や身体を動かす遊びの経験を通して、基礎的な動きを獲得し、そのレパートリーを増やしていくことです。「動きの洗練化」とは、獲得した基礎的な動きを「ぎこちない」「力み」のある未熟な動きから、「スムーズ」で目的にあった合理的で滑らかな動きに、また、基礎的な動きを連続させたり組み合わせたりといった動きのバリエーションを拡大していくことです。

このような動きの獲得を目指すためには、保育者の役割も重要であると考えられます。例えば、子どもたちが自発的に遊びに取り組み、何度も繰り返すことにおもしろさを感じるような環境構成、また、子どもたちがさまざまな遊びに興味をもち、多様な動きを経験できるような十分な時間の確保などが考えられると思います。さらに、本報告書の「わくわく運動遊び」のポイントに示されているような、多様な運動遊びの中で経験できるような工夫も、子どもたちが意欲を持って遊びに取り組むためには必要であり、この時期に必要なとされる「動きの多様化・洗練化」の獲得には、極めて重要なことであると思います。

文部科学省は、2012年3月に『幼児の運動指針』を策定しました。この中で、幼児期の子どもにとって、一日に必要な最低限の身体活動の時間として、「60分以上」という目安が示されています。また、活動の目安として「楽しく体を動かす遊びを中心に行うこと」また、身体を動かす内容には「散歩や手伝いなど生活の中での様々な動き」を含めるとしています。さらに、幼児期における運動を行う際のポイントとして「多様な動きが経験できるようにさまざまな遊びを取り入れること」、「楽しく体を動かす時間を確保すること」、「発達の特性に応じた遊びを提供すること」の三点を挙げています。昨年度の幼児教育共同研究の調査では、平日の家庭での外遊びの時間が30分以下という回答が約4割ありました。今後は、子どもたちの実態を十分把握した上で、保育時間内での対応を考えていく必要が生じる可能性もあると思います。

柏市幼児教育共同研究『こころ からだ はずむ 柏っ子』は、研究開始から3年目を迎えました。今年度からは、柏市内の全ての公立私立幼稚園とともに市内全ての公立私立保育園が新たに加わり、調査・研究が進められました。今年も、各園の先生方の協力のもとで、幼児たちの運動能力測定が行われました。この結果をもとに、各園では、幼児たちの望ましい発達を目的として、運動遊びや身体活動の習慣づくりの取り組みがなされました。さらに、昨年度に引き続き、保護者の方にもご協力をいただき、幼児の家庭における過ごし方の調査も行うことができました。

このような成果をまとめることができたのは、保育の現場で測定や調査の実施に携わって頂いた各園の先生方、また、共同研究推進委員会の先生方のご協力の賜だと思えます。本研究のように、市内全ての幼児教育に関係する機関が参加して、幼児教育の充実を目指した共同研究を行うことは、全国でも希であると思います。今後も、さらに研究が進められ、柏市全体の幼児教育の充実と向上が図られることを願っております。

聖徳大学大学院・太田繁